

## 人権教育に関する特色ある実践事例

### 基準の観点

個別的人権課題をテーマとして効果的に取り扱った実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

高知県黒潮町

#### ○学校名

黒潮町立佐賀中学校

#### ○学校のURL

<http://www.kochinet.ed.jp/saga-j/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】 3学級      【特別支援学級】 2学級      【合計】 5学級

#### ○児童生徒数

【全生徒数】 83 人（平成26年11月14日現在）  
（内訳： 1年 32人、 2年 25人、 3年 26人）

#### ○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成25～26年度 人権教育研究推進事業

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

- ・人間を大事に

##### 【人権教育に関する目標】

- ・現代社会の諸問題について、解決のために探究していく姿勢を育てる。
- ・部落差別をはじめとするあらゆる差別の現実に深く学び、人権感覚を育む。
- ・様々な人との出会いや活動から、自分をみつめ自己肯定感を育む。
- ・学年の仲間とともに学ぶ活動から、つながりを確かなものにする姿勢を育てる。
- ・自分の生き方を探り、進路を切り拓こうとする姿勢を育てる。

#### ○人権教育に係る取組一口メモ

地域の方への聞き取り学習や、資料による調べ学習を通し、知識的側面はもとより、人間を大事にする心を育て、互いの相違を認め、受容できる態度を養う。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

- ・部落差別をはじめとするあらゆる差別の現実に深く学び、豊かな人権感覚を育む。
- ・様々な人との出会いや活動を通して、自分をみつめ自己肯定感を育む。
- ・学年の仲間とともに学ぶ活動から、つながりを確かなものにしようとする姿勢を育てる。
- ・自分の生き方を探り、進路を切り拓こうとする姿勢を育てる。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### 【総合的な学習の時間における人権教育の推進】

(取組のねらい、目的)

本校では「人権教育」を中心に据え、『人間を大事に』という学校教育目標のもと、様々な活動に取り組んでいる。

学校教育目標を実現するために、『学力・進路保障』(考える)、『仲間づくり』(かかわる・つながる)、『人権意識の確立』(高まる)の3つの取組を掲げ、中でも、

- ①差別の現実に深く学ぶ「人権・部落問題」学習を確立する。
- ②差別やいじめに気づき、解決しようとする力や態度を育成する。
- ③自尊感情や自己肯定感を高め、未来に展望をもてる教育を行う。

の3点を柱として、人権教育に取り組んでおり、自尊感情や自己肯定感を高めるために、「人権・部落問題」学習の確立に努めなければならないと考えている。そうした流れの中で、今回「総合的な学習の時間」に「人権教育」を位置づけ、その趣旨に沿った形で、より効果的で深まりのある取組について研究することにした。

(取組を始めたきっかけ)

数年前から総合的な学習の時間の年間指導計画を見直すことが大きな課題となっていたが、特に「人権教育」の取組については、教師主導による授業形態がとられており、生徒が主体的に取り組む総合的な学習の時間を創造する必要性があった。

そこで、「人権教育」を総合的な学習の時間の中に位置づけ、その趣旨に沿った取組を行うため、平成25～26年度の2年間『文部科学省人権教育研究推進事業』の指定を受けることで、総合的な学習の時間についての年間指導計画の見直しを進め、併せて人権教育に関する内容の充実を図ることとした。

(取組の内容)

#### ①『学力・進路保障』【考える】

- 授業改善による言語活動の充実と学力向上
- CT (チェックテスト)と家庭学習のサイクル化による学習環境の改善  
(家庭学習への家庭の協力『わが家でチャレンジ』)
- 基礎基本の徹底を目指した補充学習の実施と検証

#### ②『仲間づくり』【かかわる・つながる】

- いじめを許さず、互いに認め合える学級づくり
- 生徒一人一人が生き生きと活動できる生徒会活動の推進
- 行事を通し、生徒が主体的に活動・表現できる場の設定

#### ③『人権意識の確立』【高まる】

- 差別の現実に深く学ぶ「人権・部落問題」学習の確立
- 差別やいじめに気づき、解決しようとする力や態度の育成
- 自尊感情や自己肯定感を高め、未来に展望が持てる教育の創造

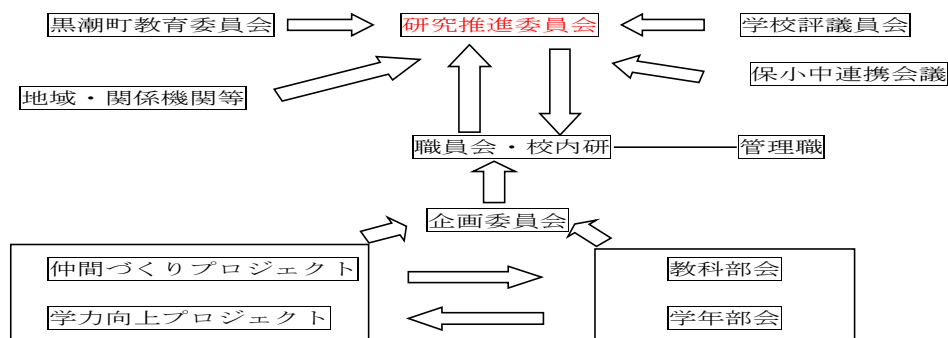
(平成25年度の取組)

- 6月17日 校内研究推進委員会
- 7月 8日 先進地視察
- 8月27日 校内研修 (人権教育) : hpQ-U 分析
- 10月18日 校内研修 (人権教育研究授業指導案検討会)
- 10月23日 校内研修 (人権教育研究授業 : 2年生)  
人権学習 : 障害者福祉施設における聞き取り学習 : 1年生  
※ゲストティーチャー招聘
- 10月30日 校内研修 (人権教育) : 講師招聘
- 10月31日 人権学習 : 障害者福祉施設との交流学习 : 1年生
- 11月 6日 校内研修 (人権教育研究授業 : 3年生)
- 11月11日 校内研修 (人権教育研究授業 : 1年生)  
※ゲストティーチャー招聘
- 11月19日 人権学習 : 解放子ども会との出会い  
※ゲストティーチャー招聘
- 11月30日 人権集会
- 12月12日 第2回 hpQ-U 実施
- 2月19日 校内研修 (人権教育) : 講師招聘  
※人権教育の授業づくりについて
- 3月19日 校内研修 (人権教育) : 講師招聘

(平成26年度の取組)

- 5月13日 第1回 hpQ-U 実施
- 5月15日 第1回人権教育意識調査
- 6月11日 校内研修 (人権教育)
- 7月 4日 校内研修 (人権教育)
- 8月 4日 教職員フィールドワーク : 講師招聘
- 8月27日 校内研修 (人権教育) : 講師招聘  
※2年部はフィールドワーク実施
- 9月22日 校内研修 (人権教育)
- 10月 6日 校内研修 (人権教育研究授業 : 3年生)
- 10月10日 校内研修 (人権教育研究授業 : 1年生)
- 10月15日 校内研修 (人権教育研究授業 : 2年生)
- 10月24日 研究発表会

(取組の主体や実施体制)



#### 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

##### (課題)

総合的な学習の時間において、生徒を主体とする探究的な学習を進めるためには、課題設定を行う場面が重要となる。しかし、これまで教師主導の授業形態での人権学習を主として行ってきたことから、教師側が意図する課題を、生徒自らが設定するための手立てや工夫についての苦手意識や困難さが見られた。

##### (課題に対する対応)

生徒が課題設定を行うためのオリエンテーション等の工夫に取り組んだ。また、地域とのかかわりを大事にし、ふれ合いを通して子供たちの豊かな心の育成を図ろうと考えた。

結果として、各学年とも、生徒に課題設定をさせる前段階での意識づけや意欲をもたせる工夫をし、オリエンテーションもしっかり行うことができるようになった。多くの研修を通じて教職員も自信を深め、ねらいをしっかりと準備を進め、生徒も教職員の姿勢や地域の方から学ぶことで、どの学年の生徒も積極的に活動に取り組むことができるようになった。

#### 5. 実践事例の実績、実施による効果

##### (取組の実績)

今回の研究の結果、総合的な学習の時間に人権教育を位置付けた、年間指導計画を立案することができた。その成果の発表として10月24日に指定事業の発表を行った。当日の公開授業では、1年が「共生の町、佐賀を目指して」、2年が「佐賀をよりよいまちに」、3年が「結婚を取り巻く問題を通して自己の生き方を考える」という単元で授業を実施した。

##### (取組が効果を上げた実際の事例)

3年の取組の中から実際の事例として紹介する。

\*紙面の都合により、指導案の全文を記載できないが、下記のような計画で取り組んだ。

##### ■ 単元名 「結婚を取り巻く問題を通して自己の生き方を考える」

##### ■ 単元について

##### ○単元観

憲法24条に「婚姻は、両性の合意のみに基づく」と明確に規定されているにも関わらず、様々な因習によって、その内容は保障されていないと言える。それは、根強く残る差別や偏見であったり、かつての「家」制度に基づいた家族や結婚に対する意識に起因するところが大きい。憲法が未だに浸透せず、人権が守られていない現実を知る中で、何が、その課題となっているのかをしっかりと考えさせ、課題設定をさせていきたい。

〈 中 略 〉

今年度は、義務教育最後の年に当たり、結婚を取り巻く様々な問題を多面的・多角的にとらえていくことで、より高い視点から問題を分析し探究していく姿勢を育てていきたい。さらに、より幸福に生きるという視点から、差別や偏見と自

分がどう向き合っていくのかを常に意識させながら、それぞれの生き方につなげていきたいと考えている。

### ○指導観

結婚にまつわる部落差別問題をはじめとする人権問題をまず、歴史的背景、結婚観、しきたりや風習、人々の意識の変化といった多面的な視点で捉えさせたい。さらに結婚の当事者とはいったい誰なのかという観点から親や親せき、兄弟姉妹それぞれの立場ではどう考えるべきかといった多角的な視点ももたせたい。そういった分析・検討を進めていく上で、憲法に保障されている個人の尊厳と両性の平等が今もって浸透していない現実を直視し、その精神や理念を実現していくことが、部落差別問題をはじめとするあらゆる人権問題解決につながるとの展望をもたせたい。その実現のために自分たちにできることは何かを考え、自ら行動していく生き方が、自己の幸福と豊かな社会の実現につながることを実感させたいと考えている。

### ■ 単元の目標

- 結婚について多面的・多角的な視点で調べ、分析することを通して、豊かな結婚を阻む差別の問題に気づき、その問題を解決していこうとする自己の生き方や行動につなげる。
- 同和問題をはじめとする人権問題は、必ず解決できる問題であるという展望をもつ。
- 自己の幸福と豊かな社会の実現のためには、人と人とのつながりを大切にする生き方が重要であることに気づき、自己の生き方や行動につなげる。

### ■ 指導と評価の計画（全13時間）

学習過程 (時間数)		ねらい (○) と学習活動 (・)	評価			
			課	情	活	評価方法
関連するこれまでの人権学習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども会との出会い、授産施設での交流学习。(1年)</li> <li>・水平社宣言の学習を通して先人から学ぶ。(2年)</li> <li>・幸福に生るために。(3年)</li> </ul>				
課題の設定	1 2	○結婚差別の事例を基に、問題の実態とその要因、解決に向けた取組とその成果、本来の結婚の在り方について考えるとともに、自分で取り組むべきテーマを見出す。	○			ワークシート
	3	・テーマに沿って、グループごとに情報収集の方法や聞き取り計画を立てる。		○		観察 ワークシート
情報収集 整理分析	4	・テーマに沿って調べ学習を進める。		○		観察 ワークシート
	5					
	6					
	7					

まとめ・活用	8	○自己の生き方とつなげながら調べた内容を整理・分析する。	○	○	観察 ワークシート
	9 10 11 (本時)	○他グループの発表を聞く中で、問題の核心部分についてさらに掘り下げながら、自己の生き方を考える。 ・まとめた内容をグループごとに発表する。		○	発表 ワークシート
	12 13	○今回の学習を通して、自分がどのような生き方をしたいかを考える ・一人一人が発表していく。		○	観察 ワークシート

### ■ 本時の展開

#### ○本時の目標

- ・同和問題をはじめとする人権問題は、必ず解決できる問題であるという展望をもつ。
- ・人と人とのつながりを大切にする生き方こそが、自己の幸福と豊かな社会の実現につながることを実感する。

(取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項)

総合的な学習の時間の趣旨に沿って、探究的な学習を仕組むことで、生徒主体の人権学習への転換を図った。

## 6. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びその評価する理由)

今回の取組を終えて、昨年までとは全く違う総合的な学習の時間の授業が展開できた。生徒たちも、受け身の姿勢ではなく、自分たちの設定した課題について、積極的に様々な工夫をしながら情報収集に取り組み、自分たちの考えや思いをみんなにどう伝えるかを一生懸命考える姿が見られた。発表の最後には一人一人が、感想や今回の学習を今後の生活にどう活かしていきたいかなど、自分の言葉で述べていたのが印象的で、生徒たちが達成感を感じている様子が見られた。

公開授業の参観者からはたくさんの感想を頂き、生徒たちの頑張りを高く評価していただいたこと、更に私たち教職員に対しても叱咤激励の言葉を頂いたことは大変有難いと感じている。

(現在、実施に当たって課題と感じていること)

課題設定については、まだまだ研究していく必要があり、年間計画を含めた見直しについても考えていかなければならない。また、小学校での人権教育の学びを大切にしながら、系統性をもった学習を仕組み、子どもたちの主体的な学習の創造を図ることが必要になる。

保護者・地域の方の意見にもあったように、今回の研究を、これから更に充実した人権教育に繋げることができるか。また、それぞれの教員が佐賀中学校以外の学校に赴任してからもこうした取組を続け、広められるかが今後の課題である。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 黒潮町立佐賀中学校

生徒が主体的に取り組む「人権学習」の在り方を研究実践した事例である。まず、生徒の課題設定を行う場面におけるオリエンテーション等の工夫が、意識づけや意欲を高めることになり、主体的に関わろうとする姿勢につながっている。

「結婚を取り巻く問題を通して自己の生き方を考える」の学習での、結婚差別を多面的・多角的な視点で調べ、分析することを通して自分で取り組むべきテーマを見出し、情報収集の方法を学んだり、聞き取り計画を立てて調べたり、交流することを通して自分の生き方とつなげながら整理・分析する過程は意義がある。

また、本時の目標にもある、同和問題をはじめとする人権問題は、解決できる問題であるという展望を持たせるという視点は大事にしたい。